



Teens ムサカツを私たち文化学習協同ネットワークが担うようになって3年目。今年は過去2年間と違い、武蔵野市から提供されたテーマをもとに提案づくりを行いました。

市政に対して、中高生世代の声が届きやすい方法は何か？…より良い形への試行錯誤はまだ続きます。この事業は中高生世代の声がダイレクトに市政に届くことが強みです。しかし、そこに留まらず、同じ自治体で暮らす様々な世代の市民の皆さんに中高生世代が何を感じ、考えているのかを知ってもらい「一緒に考えていくことが出来たら嬉しいな」そんな願いを込めて、この冊子を作成しています。ぜひ多くの方の目に留まるよう、手に取っていただいた皆さんにもご協力いただくと幸いです。

もくじ

テーマ紹介 4

提言まとめ/多世代交流チーム 6

提言まとめ/相談チーム 10

提案会に参加してくれた大人の声 14

グループファシリテーターの振り返り 15

ムサカツ参加者の振り返り 16

ムサカツの提案や中高生の声から始まった変化 17

おわりに 18

武蔵野市 中高生世代ワークショップ
Teens ムサカツ
 ティーンズ
Teens ムサカツとは？

「武蔵野市について(ムサ)、語って(カ)、つながる(ツ)」をコンセプトにした、中高生世代対象のワークショップ。武蔵野市について関心を持ちたり、自分たちの世代向け事業について提言を行ったりできる場をつくり、中高生世代の声を市政に届けることを目的としています。

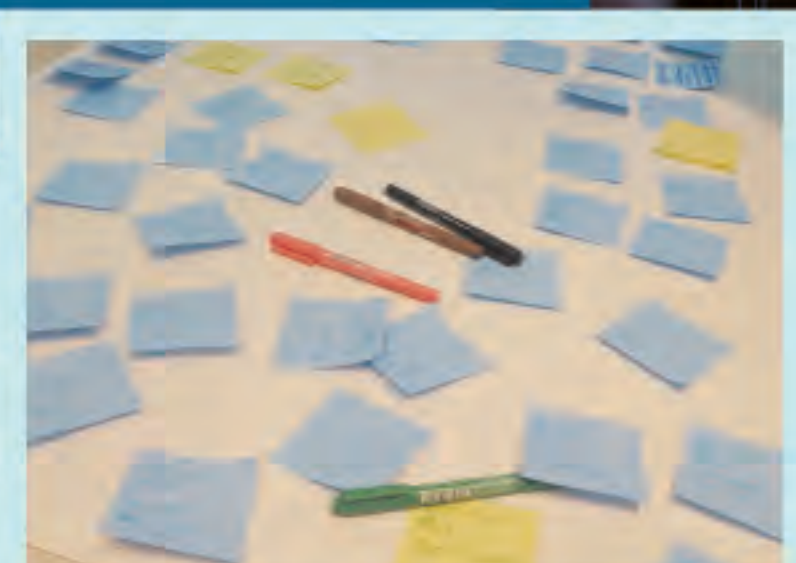
所属の記事は令和8年3月時点のものです。また、冊子内の記載内容については、一部表現方法などを変更していますが、参加者の声をなるべくそのまま使用しています。分かりにくい記載があるかもしれませんが、ご了承ください。



令和7年度テーマ

こんな‘まち’になったらいいな を市政に

今年度は昨年同様、「まち」という大きな視点で大テーマを据えました。「中高生世代の声を必要とされる分野に適切に届けること」を重視し、中高生世代の興味関心からスタートではなく、武蔵野市がテーマを提供する形でプログラムを進行しました。



小テーマ紹介

多世代交流 @テンミリオンハウス

高齢者支援課からテーマの提供を受け、市内の「テンミリオンハウス」の取り組みについて紹介をしてもらい、実際に現場の声を聞きながら中高生世代と高齢者との接点づくりや交流方法について考えました。

中高生世代が気軽に利用できる相談環境

児童青少年課からテーマの提供を受け、より広く市内の中高生世代が困りごとを相談できる仕組みについて、既存の施設の取り組みを参考にしながら利用者の目線で必要なことを考え、提案づくりを行いました。

参加者 **24**名/定員30名程度

対象者：武蔵野市在住または在学の中高生世代
中学生世代：12名 / 高校生世代：12名
武蔵野市在住：18名 / 武蔵野市在学：6名
過去のムサカツ事業参加者：8名

参加者の皆さんと比較的年齢が近い、大学生を中心とした「グループファシリテーター」がななめの関係性の中で、参加者の皆さんの様々な発言や気づきを支え、活動に伴走します。



プログラムの流れ

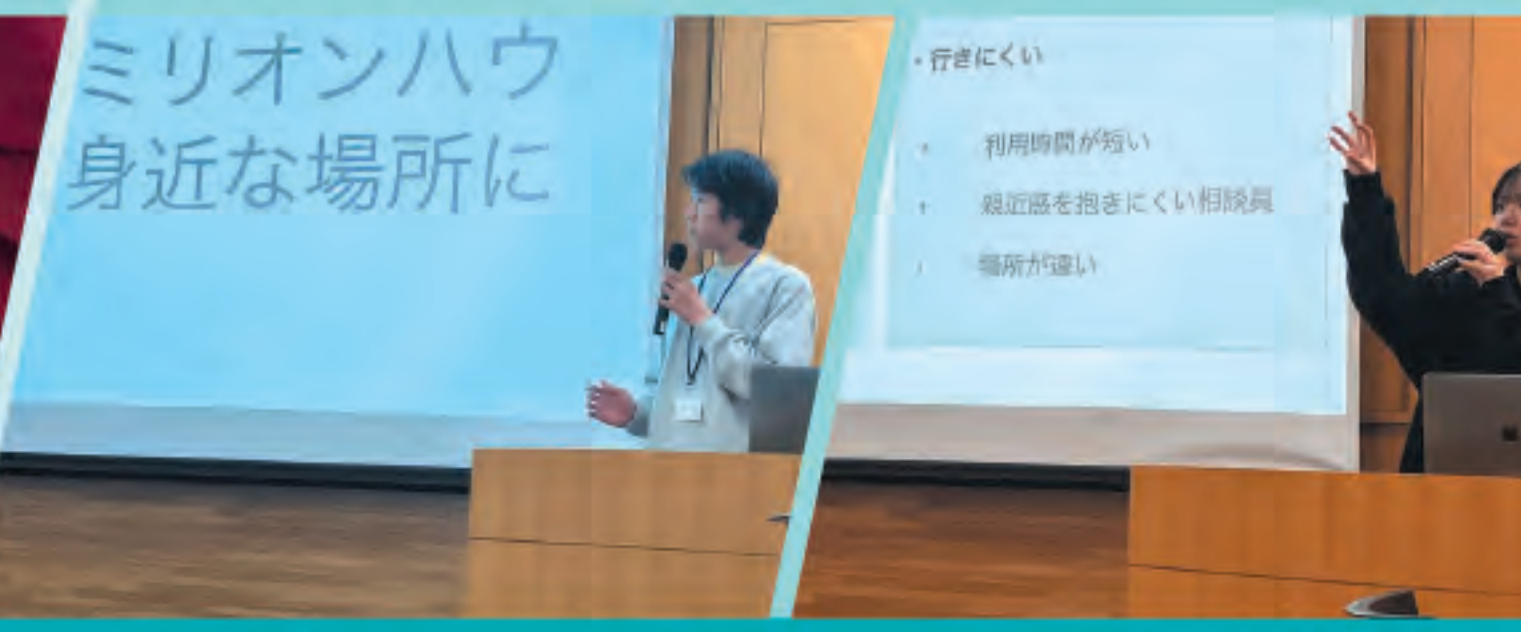
1 であう
アイスブレイクを通じて参加者同士が知り合う機会作りを行ったり、武蔵野市から提示されたテーマについて意見交換しながら、自分が関わるテーマを決めました。また、第2回で実施するフィールドワークに関わる基礎情報の確認を行いました。

2 めぐる(知る・学ぶ)
テーマ毎に分かれてフィールドワークを実施し、市内各所で施設見学や担当の方からお話を伺いました。施設や取り組みについて知ることで新しい気づきや提案作成につながるヒントを得ることが出来ました。

3 つくる
初回～第2回を通じて考えたことを整理し、グループに分かれて具体的な提案作りに着手しました。「誰に」「何を」伝えるのか、議論を重ねながらポイントを絞り提案の大枠を完成させました。

4 プレ提案会(伝えるvol.1)
テーマを提示した部署の職員を迎えて、プレ提案会を行いました。自分たちの願いやアイデアがしっかり届くように、そして最終回でより多くの方に分かり易く伝えるように、意見交換を行いながら提案の仕上げに取り組みました。

5 提案会(伝えるvol.2)
各グループの提案を市長・教育長・提案に関わる行政関係者の方々に伝える機会をつくりました。さらに提案内容を深めていく対話の場を設け、参加者と大人がコミュニケーションを取ることができるようにしました。



グループテーマ 多世代交流 @テンミリオンハウス

市内に7カ所あるというテンミリオンハウス(以下、テンミリ)ですが、多くの中高生にとってはあまり身近な存在ではありません。そこで「テンミリオンハウス」がどんな場所なのか、どんな取り組みをしているのか知るところから、自分たち世代ができること・やってみたいことを考えてみます。

グループファシリテーターの視点
身近なテーマじゃないから
自分事としては話さず



提案づくり①

話す中で「自分たちの“やりたい”だけだと、受け入れてもらえないかもしれないのでは」という声があがったことから、「市・テンミリの願い」と「中高生世代が大事にしたいこと」を整理することになりました。

「中高生が大事にしたいこと」

- ・自分たちも「たのしい」「ワクワク」が必要
- ・「してあげなきゃ」より「対等」
- ・友だちみたくに出会いたい
- ・コミュニティを広げたい

「市/テンミリの願い」

- ・若い世代にも興味や関心を持ってほしい。
- ・地域とつながってほしい。

“そもそも”を整理しよう!

プレ提案

二つの提案を、高齢者支援課の大橋さんや大人に伝えてみて、コメントをもらいました。「中高生にとって、交流するとどんないいことがあるの?」「そもそも交流したい?」という質問を受けて、提案の内容や発表の仕方を工夫してみることにしました。

グループファシリテーターの視点

「なんで交流したいの?」と改めて聞いてもらったことで、「おしゃべり自体楽しいし、笑顔になってもらえるのはうれしい」「知らないことや新しいことを学べるかもしれない」など提案の背景にある一人ひとりの想いが見えてきました。



あまり接点がないから
この機会に
考えてみたい!

地域のイベントの
お手伝いで交流したの
は
たのしかったな。

平日夕方、日曜日は
空いてないのかなあ...

両方のニーズの
「間」がいろいろと
思いつかない...

テンミリで勉強できたり
漫画があれば行きやすいのに...
難しいが。

1 回休み

「いつでも来てどうぞ」って
誘ってもらったけど
1人だとちょっと...

利用している方も
「友だち」みたくに
関われるといいな

4 マス進む

テーマに出会う

このテーマを選んだ人の中には、実際にシニア世代の方と交流した経験がある人もほとんどない人もそれぞれでしたが、「交流できたら楽しそう」というのはみんなあるかも。まずは、テンミリオンハウスの概要を教えてくださいました。



大橋さん
高齢者支援課

中高生のみなさんは、テンミリオンハウスを使ってどんなことをやってみたいのか、ぜひいろんなアイデアを自由に出してもらえたらうれしいです!

まちに出会う

吉祥寺南町にあるテンミリオンハウス「そ〜らの家」にお話を聞きに行きました。日曜日だったので利用している方にはお会いできませんでしたが、日常の過ごし方や大事にしていること、利用している方を想像することができるエピソードなどを教えてくださいました。「お汁粉」もふるまってもらって、あたたかく迎えてもらいました!



施設紹介

テンミリオンハウス
高齢者の方を対象に、市内7ヶ所で地域住民による地域住民のための介護予防・交流を目的とした通いの場として運営されています。

利用している方は「ここに来れば誰かに会える」というのを楽しみにしている人も多そうです。孫のような世代の中高生が来てくれると利用者の方も喜んでます。



そ〜らの家

「キキキ」
いったいどんな
場所なんだろう?
「キキキ」

3 マス戻る

休んじやったから前回の
ことを覚えてもらおう



活動の雰囲気
分からないとボランティアに
参加しづらい...

スタンプラリーなら、
楽しみながら
知れるかも!

6 マス進む

スタンプを押すだけじゃ
なくて「ミッション」を
設定しようよ!



このグループでは二つの提案をつくることになりました。一つ目は、「テンミリオンハウスのことをそもそも知らない」という課題から生まれたスタンプラリーの企画。二つ目は、「興味はあるけれど、ボランティアに参加するにはハードルがある」という課題から、中高生にとって参加しやすくなる工夫などを考えました。

グループファシリテーターの視点
「ボランティアって大人が
思うのと違うかもしれないから
中身を具体的にしたいね。」



Aチーム

テンミリー ～スタンプを添えて～

提案内容 市内のテンミリオンハウスをまわるスタンプラリーを行う。

背景 多くの中高生世代はそもそもテンミリオンハウスを知らないことから「まずはテンミリオンハウスの存在を知ってもらう」ことを考えました。中高生世代にとっても「楽しそう」「ワクワク」があった方が参加しやすいため、スタンプラリーにしました。



ポイント

「ミッション」の設定

スタンプを押すだけでは「多世代交流」につながらないので、各テンミリオンハウスで「ミッション」を設定します(日常的に開催されているプログラムに参加するなど)。

2つの方法

1つのテンミリオンハウスに複数回行く方法なら、同じ利用者の方と何回も交流することができ関係性を築くことができます。また、7か所すべてに行く方法だと、それぞれの特色を知ってもらうことができます。

長期休み期間の実施と「報酬」

開催時期は、長期休み(夏・冬)の2日間という形を考えました。また参加するにあたってQUOカードなどの「報酬」があると中高生世代の参加を促すことができます。



Bチーム

テンミリオンハウスを ボランティアで身近な場所に

提案内容 テンミリオンハウスでのボランティアを中高生世代にとってもっと参加しやすくする

背景 中高生の中には、テンミリオンハウスに興味をもって、勇気が出なくてボランティアに参加できない人がいると考えました。ボランティアの募集方法、活動内容、関わり方など、中高生世代にとって参加しやすくなる工夫を提案します。

ポイント

きっかけづくり

ボランティア募集について、学校で(紙の)チラシを配ってもらうと、親や友だちにそれを見せて説明しやすいです。また、どんな雰囲気で行っているか分からないと参加しづらいので、過去のボランティア参加者の感想があるといいです。

利用者さんとかかわる「実感」を得られる活動内容

「一緒にやる」「教えてもらう」「教える」の3つに分けて考えました。「一緒にやる」では、編み物や書道など日常で行われている企画に参加すると、利用者さんと距離が近くなって話しくなります。なかを「してあげなきゃ」というより、活動を通して「対等に」関わるといいです。

長期休みに・友だちと

活動に一人で参加するのはハードルが高いため、友達と一緒に夏休み期間などに参加できる形だとよいです。また、何をしたら利用する方々が喜んでくれるのかまだイメージしづらいので、やることは前もって決めてあった方が参加しやすいです。

来場者アンケートより

- ・スタンプラリーの「ミッション」後にアンケートや感想をもらおうと、利用者じゃない人目線で感じることをテンミリ側がキャッチできる。
- ・スタンプラリーなどは交流の入口なので、継続性を考えたときにテンミリの食事券を複数枚発行して友だちと一緒に来られるようにして継続性を持たせるようにしたい。
- ・学校のプログラムに組み込めるといいかも。
- ・市内に7カ所あるので、スタンプラリーは7カ所ごとに個性あるもので魅力をつくるのもあり。
- ・ミッションはテンミリの利用者と一緒に考えてもいい。「張り合い」が生まれる。



- ・利用者である高齢の方のお話が直接聞けていないので、その解像度が低く感じた。
- ・テンミリオンハウスの利用者はアナログ的な体験が得意なため、そこへのアプローチも必要だと思う。利用時間帯が中高生と合わないというのは反省点である。
- ・市立校ではチラシ配布がデータ配信に変わってしまっているが、やはり紙で配られた方が友だちとそれを見ながら話せて良いという意見が参考になった。

市長・教育長からのコメント

若者と高齢者が一緒に何かする。若者が高齢者に教える。逆に高齢者が若者に教える。

武蔵野市では、自分だけが学ぶのではなく、学んだことを他の人に教えることによつて、またフィードバックをもらう、「学び送り」を推奨しています。相互に教え合う、一緒に何かをするというのはとてもいいことだと思います。

今回皆さんが考えてくれたイベントをするにしても、高齢者と中高生の接点を作るにしても、お互いWin-Winじゃなければ絶対上手いかなと思うので、何かそういったことをテーマにおいてやっていくと実現できるかなと思いました。

小美濃市長

学ぶ・教わるという関係がこれからどう繋がっていくかというのは、すごく大事だと思います。私がいいなと思ったのは、中高生の強みであるSNSや生成AIなどを教えてあげること。その辺りはやはり高齢者の方に苦手な方が多いので、中高生の強みを活かした形の交流であれば、お互いにメリットがあつて学ぶところが大きいと思います。まずはテンミリオンハウスの存在を知ってもらったその先、継続的にどうやって中高生世代と利用者の方の交流を持続していくことはすごく難しいですが、そこにしっかりと視点を当ててまとめられていたと思います。

吉原教育長

グループテーマ 中高生世代の相談

市内には中高生が困った時に相談することができる場所がいくつかあります。しかし、中高生たちはそうした場所を利用していません。「場所があるにも関わらず、利用につながらないのはなぜなのか？」その問いが今年度のテーマでした。



テーマに出会う

児童青少年課からもらったテーマに対して自分たちが思っている「相談」のイメージを出し合いました。中高生にとって相談は「困っていることを話す」ではなく、「不満や愚痴を聞いて欲しい」に近い印象でした。

そもそもみんなにとって『悩み』ってどんなもの？どんな種類がある？相談するまでのシステムやツール、どうしたら気軽にできるかな？



佐々木さん
児童青少年課



フィールドワークでは市内にある3カ所の施設を見学しました(子どもの権利擁護センター・若者サポート事業「みらいる」・武蔵野プレイスB2フロア)。職員さんに話を聞いたり、現場を実際に見ることで中高生が利用につながっていない理由がなんとなく見えてきました。また、それと同時に、中高生たちが抱えている悩みや葛藤は多様で幅広く、相談に対する認識も一人一人違うことに気づきました。

まちに出会う

電話をかける勇気がない。LINEのような気軽さが欲しい!



親には相談していることを知られたくない。GPSで居場所も知られちゃう!



悩みがない人は相談しに行っちゃいけないの?



本音は相談の中から生まれる。交流を目的にした場所も必要!

6マス進む

グループファシリテーターの視点
思っていた以上に親に知られたくないという気持ちがある。質の違う「軽い相談」と「重い相談」は両立することができるのだろうか?



「相談」って言葉されてしまうとハードルが高くなって行きづらい!



会うだけでなく、メールや手紙、電話で相談できるのっていいな



共感して欲しい! あいづちや「うんうん!」って聞いてくれるだけでいい!

1回休み

大きな悩みを自分事として捉えるのは難しい!

弁護士とか資格を持って人とは話づらい!

直接的な名前前の場所には行きづらい(例:権利擁護センター/OO相談室)

自分の悩みを本当に相談していい人だろうか?

3マス戻る

大人が理解して動いてもらえたらいい意識すべきなんだろうか?...

プレ提案

初の試みである「プレ提案」。提案の前に中高生の意見が伝わるかどうか腕試しをしました。今回は、伝わりやすさを重視してスライドではなく、模造紙を中心にした発表をしたのち、児童青少年課の岡野さん、佐々木さんと意見交換をしました。大人のひとと意見交換をする機会はほとんどなく、自分たちの想いや考えを言葉にすることはとても難しかったです。



グループファシリテーターの視点
プレ提案は初めての試みだったけど、去年の提案会と比べると市の職員とじっくり時間をかけて意見交換ができて良かった。



「ここはもう少し掘りたいよね」といった気付きがあった。



もう一度振り返ってみると自分の解釈と他の人の解釈の違いがあった。



提案づくり②

「プレ提案」ではじっくり大人と意見交換をすることができ、手応えを感じることができた一方で大人と中高生とは前提としている認識にズレがあり、思っていたように自分たちの意見が伝わらない感覚も残りました。プレ提案のあとは、認識のズレを埋めるべく自分たちが伝えたい願いや背景をもう一度確認しました。



グループファシリテーターの視点
みんなの理解度を確認しながら、解像度を高めていくことがすごく大事!大人にちゃんとイメージしているものが伝わるっていい!



提案づくり①

中高生にとって「相談」とは様々な意味を持ち、愚痴の発散から「いじめ・虐待」といった深刻なものまで様々な質がありました。そして、「相談していることは周囲には知られたくない」という想いはみんなに共通していました。そこで、相談を必要としている人だけでなく、中高生世代なら誰でも行ける居場所の中で必要に応じて相談できる仕組みが作れないか考えました。

グループファシリテーターの視点
大人への伝えやすさを意識し過ぎると、大人の意見になってしまい、子どもの意見を拾うことができていないのではないかな?



Aチーム

相談につながるまでのプロセス

中高生世代は相談していることを周囲に知られることに強い抵抗感があります。知られることを恐れて、相談につながることを躊躇してしまうこともあります。そこで、その不安を払拭するためにも、最初の入り口を「相談」から「会話・雑談」にすることを提案します。気軽に利用できる居場所の中で仲間や大人と出会い、ゆるやかに相談につながっていくことが理想です。



ポイント

居場所を知る

まずは、居場所を知る必要があります。中高生の目に届きやすいように、LINEやInstagramといったSNSを活用して情報を発信して欲しいです。また、よりたくさんの人に情報を届けるために、学校で紙のチラシを配布することも有効だと思います。

実際につながるまでにしたいこと

居場所がどんなところなのか、どんな人(大人)がいるのか、事前にそうした情報がわかると中高生世代は居場所に行きやすくなります。困っていて相談することを検討している場合には、これまでにあった相談内容がわかると少し気が楽になります。

中高生自身が考えて相談の有無を判断する

現状では多くの中高生世代が「相談」につながる事ができていません。しかし、相談を必要としている中高生もたくさんいます。そのため、相談したいと思った中高生世代が居場所の中で相談できる人や場所を作りたいです。



Bチーム

中高生世代にとっての理想の相談環境

中高生世代には困っている人の話を聞く窓口ではなく、まずは「会話・雑談」ができる居場所が必要です。今回は、その居場所についてはどんなことが必要か意見を出し合いました。フィールドワークを通して感じたことや、話し合いの中で出てきた要素を組み込んだ理想の居場所を考えました。中高生世代が抱えている悩みやリアルなニーズを聞いて欲しいです。

ポイント

相談していることが周囲に知られない工夫

相談していることを知られないためには既存の施設を活用したり、相談以外の目的で利用していることを伝える必要があります。また、建物内のフロアを分けることで居場所利用者間でも相談していることを知られないように工夫します。

相談する相手の多様性

中高生世代にとって相談の内容は多岐に渡ります。質も多様にあるため、内容によって相談する相手も変えたいというのが本音です。恋愛相談ができて、困っていることも相談できる幅広い年齢層や職種(資格の有無も含む)の人に相談したいと思っています。

誰でも利用できる 枠組みづくり

既存の相談場所は利用できる時間が限られていることがフィールドワークでも分かってきました。困っている人に限らず中高生世代が誰でも利用できるように利用時間や曜日の拡充が必要だと感じています。

来場者アンケートより

- 相談場所は、親や他の人にバレないように、一階多目的、二階自習室、三階相談室の順(だんだん静かになっていく)というのは、相談したい人が他の人に知られることなく気軽に相談できる場所としてよく考えられていると思いました。
- 実際に、具体的に相談できる内容(解決までいったかはおいておいて)を視覚的に分かるように例を提示しておくというのは、「こんなこと相談していいのか?」と思っている人の相談のハードルを下げると思う。
- アンケートを事前にとっておく、というのも、こういったことで中高生が悩んでいて何を望んでいるのか把握できて良いと思う。
- もし(動画の)リール製作を手伝っていただければ、中高生に届く広報になるので、ぜひ一緒にやりましょう。



- 四コマ漫画、相談者プロフィールは具体的に検討していきたいと思います。
- 相談施設をもっと気軽に使いたいという想いがよくわかりました。会話、雑談から入ることが分かりやすかったです。相談の進め方(学校、親に伝える伝えない)も自分たちで決めたいという意見が印象的でした。
- 信頼を築くために雑談から入ることを重視していることがわかりました。親バレ、学校バレをととても気にしていることも印象的でした。対面で話したいというニーズもちゃんとあることがわかって安心しました。

市長・教育長からのコメント

私たちと考える本当に違うと思ったのは、電話に対する考え方です。皆さんの世代にとって電話はハードルが高いという点はこれからしっかりと考えたいです。

場所については、今後子どもたちの権利擁護センターが保健センターに移動することになっていますが、場所がとても大事だということを改めて学びました。相談相手の多様性について、子どもの権利擁護センターには、弁護士の方や様々な有識者の方に居ていただいています。もつと会話を含めてフランクな雰囲気から入っていくことが大事だということがよくわかりました。

小美濃市長

今日話を伺って良いなと思ったのは、「相談相手の多様性」です。皆さんが相談しやすいというのは相談相手の職業や年齢ではなく、自分が安心して相談できるかどうかなんです。いきなり相談室に行くのではなく、相談相手の多様性であるとか、あと会話、雑談から始めること。私はどうして学校の立場で言ってしまうんですが、学校の先生も悩みを聞いてあげるのではなくて、人として対等に皆さんとお喋り、雑談できる空間が学校の中にもできればいいのかなと皆さんの発表を聞いて思いました。

吉原教育長



皆さんの行動が
まちをより住みやすくする
原動力です

大橋さん
武蔵野市健康福祉部高齢者支援課

施設の利用者や事業の参加者である中高生の皆さんの視点と熱意は、これからの武蔵野市を形づくる大切な力で、まちの住みやすさに大きく貢献すると確信しています。これからも自分の声を信じて行動し、様々なことに挑戦を続け、夢を形にする力を育ててください。次世代のリーダーとしてさらに活躍することを期待しています。貴重な提案を本当にありがとうございます！



これからも皆さんの意見を
たくさん聞かせてください！

高木さん
武蔵野市若者サポート事業「みらいる」

皆さんの意見を聞いて、改めて「相談」にはハードルがあるんだなと思いました。中高生が感じる安心感の視点は、大人では気づかないこともあり勉強になりました！まずは、スタッフの情報について発信していきたいと思っています。皆さんが信頼、安心できる居場所・相談の場所を作ることができるようを目指していきたいです。



はなてい
東京学芸大学

ムサカツは中高生の話し合いの場であり、ファシリテーターがいかにかそれを導くかがカギとなりました。話し合いがメインであるとはいえ、いきなり話し合いを進めるのではなく、自分の意見を言い合える環境を作ることが重要だと学びました。ファシリテーター同士でも最初のアイスブレイクを行ったことにより、関わりようと思えたり、話すきっかけになったりしたので最初に緊張する場をほぐすことは非常に重要なことであると気づきました。初回のムサカツでのアイスブレイクでも硬い雰囲気が一気に柔らかくなったのでそのあとの話し合いがスムーズに意見が出たと思います。



中高生の声がおとな、社会を動かす！

三浦さん
武蔵野市子どもの権利擁護センター「まもルーム」

みなさんからいただいた提案が想像以上に具体的で、前向きなことにとっても感動しました。次は、我々おとながその提案をどう活かせるかが問われるなど感じました。普段から子どもたちの悩みや想いを受けとっている「まもルーム」ではありますが、子どもの権利を知ってもらう取組みもしていますので、これからも注目していってくださいね。



まひる
杏林大学

最終回では、自分たちで試行錯誤しながら発表を終えた後に、子どもたちが「ちゃんと大人に伝わっていたよね！」と声を掛け合っている姿が見られました。ムサカツでの活動を通して、ただ意見を聞くだけでなく、「伝わった」と実感できる経験が、子どもたちの自信や次の一歩につながるのだと学びました。子どもたちの声を尊重し、フォローしながら形にして届ける役割の重要性を、ファシリテーターとして強く感じています。同時に、私自身も今後の生活の中で、他者の意見を想像だけで括るのではなく、実際の声を聞き、受け止め、その上で行動することをより意識していきたいと思いました。



しまこう
明治大学

私が見ていたグループは高校生が多かったことありますが、自分の意見をしっかりと伝えていたなと感じました。ひとつ驚いたのが、第5回で大人たちが入るだけでこんなに緊張感が走るのかと思いました。しかし、そんな大人の硬い雰囲気にも負けず、初めの発表をした子達はほんとは素晴らしかったです。ポスターセッションでも初めはみんな緊張しているように見えたけれど、だんだんと高校生を中心に自分らしくまっすぐな意見を伝えられていたなと感じました。大人の雰囲気にも負けず、中高生（特に中学生）がまっすぐ度のない意見を言えるような環境づくりが、ムサカツ全体で必要だと感じました。

ムサカツ参加者の振り返り

※ 参加者の振り返りシートより抜粋

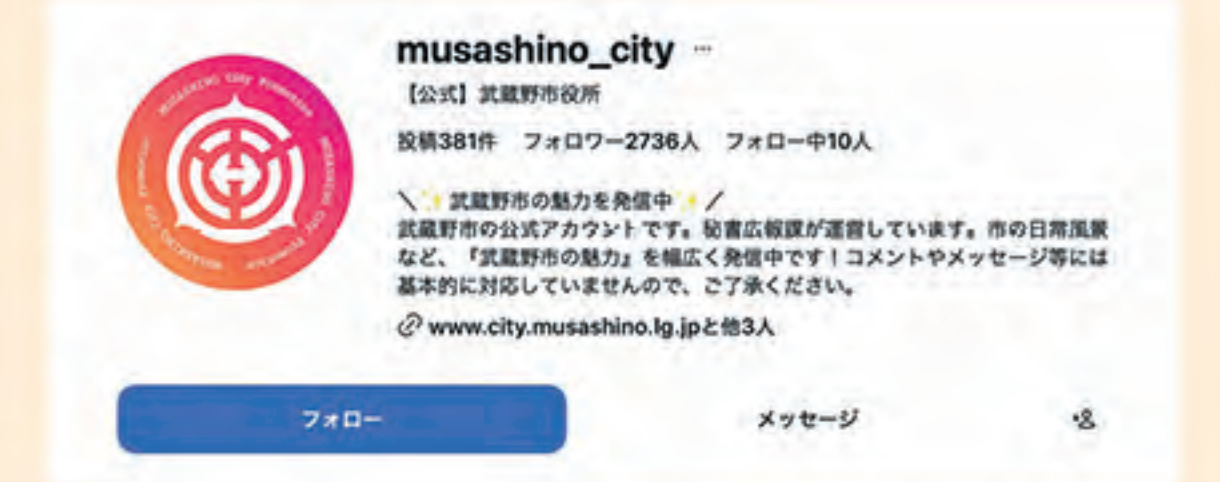
- 昨年まではプレゼンをしても上手く大人の方々に私たちの意見が伝わっている感覚がなかったのですが、今回の提案会では大人の方々に提案を理解していただき、意見交換ができたと思います。
- ムサカツを通して、みんなで意見を出し合っ一つのテーマを掘り下げていく大切さを学んだ。
- 志を持って参加している人が多いため、それぞれ意見をぶつけ合うとそれぞれに磨きがかかって楽しかった。去年のムサカツではなかなか大人と分かりあうことが上手くできなかったと感じたが、今年は互いに思うことをぶつけ合い、意思の疎通がとれたと思う。
- ムサカツに参加する前まで、市が市民の意見をこんなに採用しようとしてくれていると知らなかったの、小さな声でも届くということを実感できてすごく興味深く、面白かった。
- 学校ではなかなか出会えなかったような背景をもつ人たちとも交流して楽しかった。相談までのプロセスをしっかりと考えたのは初めてだったけれど、こんな障壁がある、だったらどんな解決策を考える必要があるのか、といった課題解決のスキルも少しは身に付いたのかなと思った。
- 学校では無いような他の年齢の人との議論を重ねることで、思いつかないような考えや自分にはない視点での意見を聞くことで、自分の活動幅が広がったような感じがした。またテンミリオンハウスなどのこれまで知らなかったような武蔵野市のことを知れ、参加する前よりも市のことを身近に感じられるようになった。
- 親に参加を強制されたため、初めは嫌々参加していたが色々なプログラムを体験していくにつれ自分から参加したいという意識も芽生えるようになってきて、最終的には次回参加したいという気持ちになることができた。次回もムサカツに参加したいと思えることができたため、期待と結果のギャップは良い意味であったと思う。
- 本音を言うと、最初はムサカツにあまり期待していなかった。しかし、実際に参加してみて提示された課題からすごく興味深く、どのようなアプローチをすれば武蔵野市に良い影響を与えられるのかを考えるのもすごく楽しかった。
- 短い期間の中で、何かをつくりあげる経験はあまりできないので、自分の中で新しいことに挑戦できた機会になった。ここで学んだことを忘れず、自分の探究に繋げていきたいと思った。
- 違う学校の中高生と関わる機会ってなかなか無いし、たった1個差でも感じていることがまったく違っておもしろかったです。私はこういうプロジェクトに対して、「実現化が1番大事!!」というふうに考えてきましたが、この2年で「そうでもないな」と思いました。自分の思いや主張が他人に伝わるだけでも意味があるんだと感じました。
- 個人的にもっとこの空間にいたいと思います。壁がなく自由に話せる空間がいいと思います。
- 普段自分の意見を言語化して伝えるということをあまりやっておらず、あまり意見を言えなかったのが悔しい。次参加するときはもっと自分の意見を他人に伝えられるようになりたい。
- 今まで自分とは関係ない、遠い存在だと思っていたことがムサカツを通してぐっと身近なものになったと感じることができました。また、自分が「もっとこうしたい!」「こうしてほしい!」という意見を市に発する機会というもの今までなかったのが今回のこの活動はとても自分にとって学びになったと思いました。
- 市政提案会では大人の方々の考え方の違いに気づかされ、私たちにはなかった着眼点で質問が来たため提案会の中でもさらにテーマについて深く理解することができたと感じました。
- 今までは、自分の意見を言っても実現する場がなかったので、どこか意味がないと思っていたけれど、ムサカツに参加することで自分の気持ちを実現にかぎりなく近づけてくれる場ができました。提案会では、大人から見た中高生の気持ちと、実際の中高生の考えにギャップがあったことがおどろきでした。こんな場をもっと増やしてほしいです!
- この活動に参加する前は市政や中高生、高齢者との関係は何も知りませんでした。また、自分には関係がないと思っていた部分もありました。しかし、実際に何が起きているのか聞いたり、話し合ったりすることで現状を知り、変えるのは自分たちだと気づくことができました。
- 昨年とは違い今年はテーマが決まっていたため、課題や提案がはじめは思いつきませんでした。しかし、実際にまもルーム見学などを通して課題が見えてきて、より私たち中高生がもつめている相談室、居場所を考えることができました。中高生と話すことで学校ごとの違いや市の方と話し、世代間の違いも感じるようになってきて楽しかったです。

ムサカツの提案や中高生の声から始まった変化

Teens ムサカツにおける広報の工夫(2024年度~)

これまで様々な提案において、随所に登場した「中高生世代が、中高生世代に向けて呼びかける情報発信」の仕組み化。

令和7年度はムサカツに参加する中高生が文章を考え、市の公式Instagramで活動報告が行われました。



自習室リストの公表(2024年度)

令和6年度の提案において「市内にある自習室のマップ作成」が提言されました。その声が直接の要因ではなかったものの、市内公共施設の自習スペースリストが作成され、武蔵野市HPで公開中です。

自習室の開設(2025年度~)

令和6年度のムサカツで生まれた「勉強(自習)する場がほしい」という願いをもとに、今年度から試験的に中高生世代限定の学習室を開放しました。

【令和7年度・実施日程】

- ① 9月1日 ~ 10日
- ② 11月3日 ~ 12日
- ③ 令和8年2月17日 ~ 26日(21日を除く)

中高生世代限定

学習室を開放します

個人学習でもグループ学習でもOKです!

日程 2/17(火) ~ 26(木) (2/21(土)を除く)

時間 【平日】午後4時30分~午後9時
【土・日曜・祝日】午前10時~午後4時30分

場所 商工会館 3階 講座室 (吉祥寺ロフト前)

対象 市内在住・在学の中学生および高校生世代

持ち物 学生証または住所が確認できるもの
MAP

スタッフが常駐(見守り)をしています

【問い合わせ】武蔵野市役所児童青少年課
TEL:0422-60-1853
Mail:sec-jidouiseisyo@city.musashino.lg.jp

市HP

今年度のムサカツは、テーマを市から投げかけてもらう形で始まりました。ワークショップが始まりしだいに見えてきたのは、「相談」「多世代交流」という言葉一つにしても、中高生世代がイメージしているものと、大人がイメージしているものは、少しずつ違っているということ。自分たちはどう思っている？どんなふうになったらいいかな？想いや考えがどうやったら大人に伝わるだろうか？…話は行ったり来たりしながら、グループごとに提案をつくってきた過程を、この冊子ではすころく形式で紹介しました。最終的な「提案」とともに、その途中でたくさん聞かれた「小さなつばやき」にもぜひ耳を傾けてもらえるとうれしいです。

令和7年度
 武蔵野市中高生世代ワークショップ「Teensムサカツ」
 「こんなまちになったらいいな」を市政に」提言まとめ

発行日 令和8年3月
 発行 特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク
 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-14-3
 TEL 0422-47-8706 / FAX 0422-47-8709

※ 本事業は特定非営利活動法人文化学習協同ネットワークが武蔵野市の委託を受けて実施しました。
 一部資料提供:武蔵野市

